

## 『言葉を磨く』国語の学習～おススメの学習方法も紹介します～

国語のオリエンテーションで「国語は何のために学習するのでしょうか」と生徒に質問しました。生徒からは、「受験のため」「将来のため」「正しい日本語が伝えられるようになるため」「情報を正確にやりとりするため」様々な答えが返ってきました。

私たちは、普段から言葉を発して伝え、多くの人のお話を聞き、文章やメールを書き、様々な文章を読んでいます。国語で身につける「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の力は誰もが日常生活の中で使っています。そして、現代はますますその機会が多くなっています。

### 【話すこと・聞くこと】

会話 スピーチ 電話 テレビ電話  
リモート会議 ライブ配信  
ラジオ配信 Youtube など動画配信



など

### 【読むこと・書くこと】

読書 新聞 作文 説明書 ブログ  
手紙 メール SNS ネット記事  
テスト



など

様々な発信方法があり、自分の言葉を伝える機会が多くなりました。また、記録媒体も優れ、ビデオや映像データで自分の発した言葉が残せるようになりました。便利な反面、不特定多数に自分の言葉が伝わる可能性も高くなります。芸能人やYoutuber、インフルエンサーが炎上して多くの批判が集まったり、友達同士のラインのやり取りでトラブルに発展してしまったりとトラブルも多くあります。自分の発する言葉、書く言葉に注意が必要になってきます。

また、対面のやりとりではなく、ネット上で買い物や手続きができる時代になったため、そこにある情報を読み解き、選び取る力が必要になっています。ネット記事は手軽に情報を得ることができますが、偏った情報だったり不適切な日本語がそのまま使われたりしていることもあります。膨大な情報量のなかから、正しい情報を正確に読み取る力が必要になります。

国語の授業は「言葉を磨く」時間です。一人一人が自分の考えを簡単に発信でき、言葉や情報があふれる時代だからこそ、授業を通して言葉の大切さを理解し、自分の言葉を磨けるようにしたいと考えています。

国語はすべての教科の基礎と言われます。理科も社会も日本語で何を聞かれているかを読み取れなければいけませんし、数学の証明は論理的に人に説明する力が必要です。英語も多くの人が一度日本語で文を考えています。読解力、記述力は国語だけでなく、他教科でも必要になる力です。

しかし、生徒からは国語は勉強の仕方がわからないと言われることが多くあります。生徒向けに紹介した自学の方法を掲載しますので、ご家庭でも参考にしてみてください。

国語はすべての教科の基礎  
国語力を向上させることが、他  
の教科の学力向上にもつなが  
るのです！



# おすすめ勉強法

～漢字が書けるようになるために～

漢字の勉強はどのように進めていますか。テスト範囲表を確認して、片っ端から漢字練習帳に漢字を書き写していませんか。実はこの勉強法はおすすめしません。なぜならその漢字の中には、すでに書ける漢字が含まれているはずだからです。分かるものを練習するのは非効率ですね。

限られた時間の中で、**効率的かつ効果的に**漢字が書けるようにするにはどうすればいいでしょうか。一番おすすめしたいのは「セルフ漢字テスト」です。やり方は以下のとおりです。

## 「セルフ漢字テスト」のやり方

①テスト範囲表を確認して、漢字のテキストを開く。

②テスト範囲の漢字が書けるかどうか、まずはテストする。

③解けた漢字にはをつける。

※悩んで適当に書いて、たまたま正解だった問題は除く！

この漢字テストをしてがつかなかった漢字だけ、練習して書けるようになればいいのです。要するに、「勉強（練習）をするべき漢字を抽出し、インプットしていく」ということです。

しかし、これだけではまだ不十分です。練習した漢字が、本当に書けるようになっているかをチェックする必要があります。ここで第二回「セルフ漢字テスト」をやります。最初のテストとは異なり、今度はがつかなかった漢字のみテストすればOKです。人は忘れる生き物です。一度練習した程度では身につかない漢字がたくさんあるはず。また不正解だった漢字のみ練習していき、第三回、第四回、第五回…と「セルフ漢字テスト」を繰り返していき、すべての漢字にをつけます。

「セルフ漢字テスト」をすると良い理由は、勉強した漢字を「アウトプット」できるからです。知識を頭に入れることを「インプット」、頭から引き出すことを「アウトプット」といいます。この「インプット」「アウトプット」を何度も繰り返していくと、脳が「これは何度も思い出すから、必要な情報だな」と認識してくれるようになります。自分の名前がスラスラ書けるようになったのも、皆さんが幼い頃から何度も繰り返し覚えて書いていたからです。「アウトプット」は、どの科目の勉強でも大切です。自分が学んだことを友達や家族に教えるのも良いですよ。ぜひ試してみてくださいね。

(文責：国語科)

※次ページに総合的な学習の時間の様子を掲載しています。引き続きご覧ください。

# 3学年の「総合的な学習の時間」の取り組みについて

5月13日（月）は、2・3学年は学年の計画による「1日総合」でした。3学年は篠ノ井の地域についての学習をしました。午前中学生たちは「歴史探訪」「郷土食づくり」「商店街・駅の散策」「Uスタジアム見学」の4つの分野に分かれ、各自課題をもってそれぞれのグループごとに活動に取り組みました。今回は事前学習からまとめまでを、クロムブックのスライドを用いて行っています。当日取った写真もスライドに取り込んでいます。

## 5月13日: Uスタジアム

テーマ  
「Uスタジアムのサッカーの試合以外の活用」

3年 4組 7番 氏名小宮山雄仁

### 事前学習で分かったこと

Uスタの活用方法

- ホームゲーム開催時に、市町村ごとの出店ブースを設置。  
↳その地域の特産品などを販売することができる
- 自治体のPR動画を場内で放映《(出典：長野市提供) 鹿児島市》
- 親子でサッカーを体験できるイベントを開催している。
- サッカー以外にも、ラグビーを行っている。

←サッカー体験イベント出店ブース→



### まとめ



↑座席に「NAGANO」と書いてある

↑上から見てみると「U」の形になっている！

- 長野Uスタジアムについて  
正式名所：南長野運動公園総合球技場  
通称：長野Uスタジアム  
由来：屋根の形がUの字のため  
座席数：約15000人
- お金について  
建設費：71億4千万円 参考：国立球技場1569億円、東京ドーム約350億円  
建設時一番お金がかかったところ：屋根  
1試合のグラウンドの使用料：32万円  
電気代：照明1時間7万円
- スタジアムスタッフについて  
職員の数：4名  
業務内容：スタジアムの管理・維持、清掃
- サッカー以外の活用について  
スタジアムでのゲームがない日は、記者会見室などを使用できる状態にして、地域の「ヨガ」「体操」教室を貸し出している。またラグビーの試合も開催。

↑美しいこと：試合会場の雰囲気を感じることができる！  
↑大変なこと：スタンド清掃

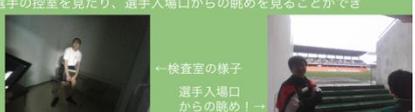
↑ナイトゲームの場合4時間点灯

### 5月13日の体験から学んだこと

自由記述欄

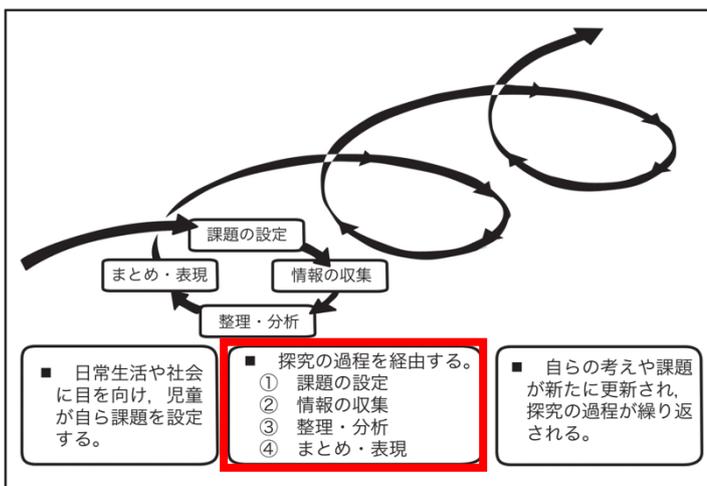
- キッズルームを完備するなど、女性に優しいスタジアムだった。
- ドレーピングを使用した選手を検査、看護する部屋があった。
- Uスタジアムでサッカーの試合がない日は、Uスタジアムでラグビーを行ったり、記者会見室などを地域の「ヨガ」「体操」教室に貸し出している。
- 障害を持った人でもサッカーの試合を楽しめるように、車椅子専用の席を用意したり、多目的トイレを設置していた。
- 選手の控室を見たり、選手入場口からの眺めを見ることができた。

↑検査室の様子  
↑選手入場口からの眺め！

総合的な学習では、「探究的な学び」を心がけています。

○探究的な学びとは・・・？



探究的な学びとは、左図 □ の①～④のステップを繰り返して行うような学習です。今回の3年生の学習に当てはめると次のような活動になります。

- ① 課題の設定  
→身近な篠ノ井の中で関心のあることを選ぶ
- ② 情報の収集  
→事前学習+現地での調査
- ③ 整理・分析  
→調査内容や写真の整理
- ④ まとめ・表現  
→Google スライドでのまとめ

教師から出された課題に取り組むだけでなく、自ら課題を設定して学んでいくことは現在求められている学力の1つです。3年生は現地調査やまとめに意欲的に取り組みました。この学習の発展を私たちも楽しみにしています。